

【原著】

一般入試選抜を対象とした入学志願者の傾向分析

—過去3年間の入学志願者アンケート調査分析から—

北澤武, 渡辺美紀, 上野淳 (首都大学東京 大学教育センター)

本研究では都内 T 大学において、平成 20～22 年度一般入試選抜による志願者を対象に、志望時期、志望理由、大学の情報収集方法に関する質問紙調査を行い、回答結果を年度、性別、卒業区分（卒業見込・卒業）、出身地の属性別に分析を行った。その結果、女子は男子よりも志望時期が早いことが示唆された。また、卒業見込の志願者は志望時期が早く、志望理由として研究内容や施設・設備を挙げる傾向があることなどが分かった。さらに、東京都出身の方が関東、関東外出身よりも志望時期が早く、志望理由と情報収集とも家族・知人の影響が大きいことが分かった。

1 はじめに

大学入試では、志願者の増加と学生確保のために広報活動が重視され、その取り組みと評価が行われている。例えば、秋田大学では、入学者出身高校所在地別データ集を用いて入試広報活動の重要地域を割り出し、これに基づいた全国的な高校訪問が受験者数の増加に効果を上げている（加賀谷ほか、2008）。静岡大学では、新入生に対してアンケート調査を行い、大学進学を意識し始めた時期や大学を志望する「きっかけ」となった主な情報源を分析した結果、ホームページの充実が重要と指摘している（寺下ほか、2010）。さらに、長崎大学においてもまた新入生を対象とした入試広報に関する調査が行われ、受験校決定に強く影響するのは国立大学であるということと大学入試センター試験の成績であることが示唆されている（吉村ほか、2010）。

上述の先行研究から、大学に関する情報源の入手方法や受験校決定に影響を及ぼす要因を分析し、その知見を活かした広報活動が有効であることが分かる。しかしながら、これらの知見は大学によって異なると考えられるため、各大学において同様の調査が必要と思われる。さらに、志望時期や志望理由、大学

に関する情報収集方法などを分析するにあたり、調査対象者を新入生とするよりも当該の大学を志願する者を対象とした方がより多くのデータ入手が期待でき、かつ、入学前の時点での情報を明確に把握できると思われる。加えて、受験生の性別や卒業区分（卒業見込・卒業）、出身地などの属性を考慮した分析を行うことで、これらの差異に関する知見が得られる可能性があることから、これらの属性を意識した広報活動の時期や方略を検討することが可能になると思われる。

そこで本研究では、入学志願者を対象としたアンケート調査を実施し、志望時期や志望理由、大学に関する情報収集方法について、性別や卒業区分、出身地などの属性を考慮した分析を行うことを目的とする。

2 調査概要

2.1 対象

平成 20～22 年度都内 T 大学一般入試選抜による入学志願者を対象とした。¹⁾

2.2 期間

a) 平成 20 年度調査

2007 年 10 月末～2008 年 2 月 6 日

- b) 平成 21 年度調査
2008 年 10 月末～2009 年 2 月 4 日
- c) 平成 22 年度調査
2009 年 10 月末～2009 年 2 月 3 日

2.3 回収方法と回収数

質問紙を願書に同封して配布し、任意で出願書類と同封してもらった形式で回収した。²⁾

- a) 平成 20 年度調査
出願期間：2008 年 1 月 28 日～2 月 6 日
回収数（回収率）：4076 人（49.9%）
- b) 平成 21 年度調査
出願期間：2009 年 1 月 26 日～2 月 4 日
回収数（回収率）：5178 人（67.2%）
- c) 平成 22 年度調査
出願期間：2010 年 1 月 25 日～2 月 3 日
回収数（回収率）：4929 人（57.1%）

2.4 内容

- a) 属性
性別，卒業区分（卒業見込・卒業），出身地（都道府県名）

- b) 質問項目

- ・ 志望時期

「都内 T 大学を受験することを決めたのは、いつごろですか。」（5 件法）

- ・ 志望理由

「都内 T 大学を受験した理由について、当てはまる番号に○をつけてください（3 つまで選択可）。」（3 択）

- ・ 情報収集

「都内 T 大学の情報をどのようにして知りましたか。情報を得るのに役立ったものを順に 3 つ（以内）選んでください。」（上位 3 択）

3 結果

3.1 属性

上述の回収数のうち、性別，卒業区分，出

身地の属性が明らかであったデータを本分析の対象とした（表 1）。出身地については、東京都，関東（東京都を除く），関東外の 3 群に分けて分析を行った（表 2）。

表 1 調査対象者の性別と卒業区分

平成20年度調査			
性別	卒業見込	卒業	計
男子	1690	1023	2713
女子	930	383	1313
計	2620	1406	4026
平成21年度調査			
性別	卒業見込	卒業	計
男子	1650	747	2397
女子	942	232	1174
計	2592	979	3571
平成22年度調査			
性別	卒業見込	卒業	計
男子	2132	1074	3206
女子	1343	361	1704
計	3475	1435	4910

表 2 調査対象者の出身地

年度	東京都	関東	関東外	計
平成20年度	1178	1385	1463	4026
平成21年度	1164	1217	1190	3571
平成22年度	1483	1709	1718	4910
計	3825	4311	4371	12507

3.2 志望時期

a) 集計結果

志望時期は、1) 昨年度の 3 月以前，2) 4～6 月，3) 7～9 月，4) 10 月～センター試験前，5) センター試験後の 5 件法で問うた。各項目について回答数の割合を算出した結果，全体として「センター試験後」が他の時期よりも割合が大きく，次いで「昨年度の 3 月以前」が多く，受験年度の 4 月以降は試験が近づくにつれて割合が増加した（表 3）。

次に，表 3 の属性別に見てみると，年度別では「センター試験後（平成 20 年度 28.9%，平成 22 年度 32.0%）」の割合が上昇している

ことが分かった。さらに、卒業区分に関わらず「センター試験後」の割合は男子の方が女子より高く、「昨年度3月以前」の割合は女子の方が高いという結果が得られた。このことから、全体的に男子よりも女子の方が早い時期に受験を志望している可能性が示唆された。

次に、出身地別の集計結果に着目すると、「センター試験後(東京都 22.0%, 関東 31.3%, 関東外 35.8%)」、「昨年度の3月以前(東京都 29.0%, 関東 19.9%, 関東外 16.4%)」などから、「センター試験後」の回答について、東京都出身の志願者は他の地域の志願者よりもその割合が小さく、関東や関東外の出身者はセンター試験後に受験を志望した割合が東京都出身よりも大きいことが予想された。「昨年度の3月以前」の回答について見てみると、東京都は他の出身地よりもこの割合が大きく、関東、関東外の出身者は東京都出身者よりもこの割合が小さい可能性が示唆された。このことから、東京都出身の志願者は他地域出身の志願者よりも比較的早い時期に受験を志望していると思われる。

b) 属性による影響の分析結果

志望時期の回答結果について、年度、性別、卒業区分、出身地別に集計結果を分析した結果、上述のようにこれらの属性によって割合が異なるところがいくつか存在した。そこで、志望時期についてこれらの属性がどれだけ影響を与えるか、志望時期(1) 昨年度の3月以前、(2) 4~6月、(3) 7~9月、(4) 10月~センター試験前、(5) センター試験後を5段階の順

表3 志望時期の結果(属性別)

項目と属性	n	昨年度の3月以前	4~6月	7~9月	10月~センター試験前	センター試験後	無回答	
全体	12507	21.4%	12.4%	15.4%	19.6%	30.0%	1.0%	
性別	平成20年度調査	4026	21.2%	12.3%	15.8%	20.1%	28.9%	1.7%
	平成21年度調査	3571	22.7%	13.1%	16.1%	18.9%	28.6%	0.6%
	平成22年度調査	4910	20.8%	12.0%	14.7%	19.8%	32.0%	0.8%
卒業区分	男子(卒業見込)	5472	18.7%	12.4%	16.6%	21.3%	29.9%	1.1%
	男子(卒業)	2844	18.5%	9.5%	12.0%	21.2%	37.9%	0.9%
	女子(卒業見込)	3215	27.6%	15.4%	17.0%	15.6%	23.4%	1.0%
	女子(卒業)	976	25.0%	11.3%	13.6%	19.3%	29.8%	1.0%
出身地	東京都	3825	29.0%	14.5%	15.3%	18.0%	22.0%	1.2%
	関東*	4311	19.9%	12.5%	15.0%	20.3%	31.3%	0.9%
	関東外	4371	16.4%	10.5%	16.0%	20.3%	35.8%	1.0%

※ 東京都を除く

序尺度として定義)を従属変数、年度(2008=0を基準カテゴリーとした2つのダミー変数(2009, 2010)を採用)、性別(男子=0, 女子=1のダミー変数)、卒業区分(卒業見込=0, 卒業=1のダミー変数)、出身地(関東外=0を基準カテゴリーとした2つのダミー変数(関東, 東京都)を採用)の属性を独立変数とし、重回帰分析を行った。

結果、2008年度を基準カテゴリーとしたときの2009年度の標準偏回帰係数に有意性が認められなかったものの、それ以外の標準偏回帰係数には有意性が認められた(表4)。この結果から、年度別では標準偏回帰係数が0.029 ($p < .01$)であったことから、2008年度(=0)より2010年度(=1)の方が、志望時期が遅くなる傾向が認められた。

性別について、標準偏回帰係数が-0.107 ($p < .01$)であったことから、女子(=1)の方が男子(=0)よりも志望時期が早いことが分かった。卒業区分の標準偏回帰係数は0.055 ($p < .01$)であったことから、卒業済みの志願者(=1)の方が卒業見込の志願者(=0)よりも志望時期が遅いことが示唆された。

出身地の標準偏回帰係数について見てみると、関東外(=0)に対して関東が-0.053 ($p < .01$)、東京都が-0.164 ($p < .01$)であったことから、東京都出身の志願者は志望時期が早い傾向があり、関東、関東外になるにつれて、志望時期が遅くなる傾向が認められた。

表 4 志望時期に関する重回帰分析の結果

変数	志望時期 (標準偏回帰係数)
年度(2008=0)	
2009	-0.007
2010	0.029 **
性別 (男=0, 女=1)	-0.107 **
卒業区分 (卒業見込=0, 卒業=1)	0.055 **
出身地(関東外=0)	
関東	-0.053 **
東京都	-0.164 **
決定係数	0.042 **
自由度調整済み決定係数	0.042 **

**p<.01

3.3 志望理由

a) 集計結果

志望理由については、表 5 の選択肢 (11 項目) から 3 つまでを選択してもらった (ただし、「7. 家族, 知人等から勧められたから」、「8. 実家から通える距離だから」の項目は、平成 21 年度調査から追加した項目であり、平成 20 年度調査では、上記項目に該当する自由記述の数を分析した。)。各項目について回答数の割合を算出した結果、全体として「教育内容 (54.0%)」の割合が他の項目よりも大きい値を示していることが分かった (表 6)。次いで、「施設・設備 (40.4%)」、「授業料 (37.6%)」、「第一志望 (32.6%)」の順であった。

次に、表 6 の属性別の割合について、年度別の割合に着目すると、「教育内容 (平成 20 年度 57.2%, 平成 21 年度 53.7%, 平成 22 年度 51.6%)」、「施設・設備 (平成 20 年度 43.7%, 平成 21 年度 40.1%, 平成 22 年度 37.8%)」の順であることが分かった。

表 5 志望理由の選択肢

選択肢
1. 教育内容が充実しているから
2. 研究内容が充実しているから
3. 知名度が高いから
4. 施設・設備が充実しているから
5. 就職・資格取得の支援体制が整っているから
6. 授業料が安いから
7. 家族、知人等から勧められたから
8. 実家から通える距離だから
9. 自分の学力実績を考えて、第一志望校として妥当であると判断したから
10. 自分の学力実績を考えて、滑り止め校として妥当であると判断したから
11. その他

性別、卒業区分別の割合に着目すると、「教育内容」、「施設・設備」の順であることが分かった。「教育内容」の割合について述べると、男子よりも女子の方が 10%ほど大きいことから、女子の方が志望理由に「教育内容」を挙げている割合が大きいことが予想された。

b) 属性による影響の分析結果

志望理由の回答結果について、属性別に集計結果を分析した結果、属性によって割合が異なる箇所がいくつか存在した。そこで、志望理由について属性による影響を追究するために、ロジスティック回帰分析を行った。具体的には、志望理由の各選択肢 (有=1, 無=0 のダミー変数) を従属変数、年度 (2008=0 を基準カテゴリーとした 2 つのダミー変数 (2009, 2010) を採用)、性別 (男子=0, 女子=1 のダミー変数)、卒業区分 (卒業見込=0, 卒業=1 のダミー変数)、出身地 (関東外=0 を基準カテゴリーとした 2 つのダミー変数 (関東, 東京都) を採用) の属性を独立変数とし、分析した。

偏回帰係数の有意性に着目した結果、全体

表 6 志望理由の結果 (属性別)

項目と属性	n	1. 教育内容	2. 研究内容	3. 知名度	4. 施設・設備	5. 資格	6. 授業料	7. 家族・知人の勧め	8. 距離	9. 第一志望	10. 滑り止め	11. その他	
全体	12507	54.0%	21.2%	15.1%	40.4%	15.2%	37.6%	11.0%	14.6%	32.6%	5.5%	2.1%	
年度	平成20年度調査	4026	57.2%	22.4%	16.4%	43.7%	15.2%	36.3%	0.2%	1.2%	35.9%	6.3%	6.5%
	平成21年度調査	3571	53.7%	21.2%	14.1%	40.1%	14.8%	38.2%	15.6%	21.4%	33.8%	3.8%	4.6%
	平成22年度調査	4910	51.6%	20.2%	14.7%	37.8%	15.5%	38.4%	16.5%	20.7%	29.1%	6.1%	4.5%
性別	男子(卒業見込)	5472	50.1%	22.2%	16.8%	40.1%	13.2%	38.9%	10.4%	14.0%	36.3%	6.0%	1.8%
	男子(卒業)	2844	48.1%	21.4%	19.2%	38.0%	13.9%	36.8%	9.9%	12.8%	35.3%	7.5%	2.5%
	女子(卒業見込)	3215	63.8%	19.9%	9.3%	42.2%	18.8%	37.0%	12.7%	17.1%	25.9%	3.2%	2.1%
	女子(卒業)	976	60.3%	19.6%	12.7%	42.5%	18.4%	35.1%	12.4%	15.3%	26.4%	4.3%	2.3%
出身地	東京都	3825	52.1%	18.3%	10.9%	35.1%	13.4%	56.6%	12.7%	26.4%	25.0%	4.9%	1.7%
	関東*	4311	52.1%	21.9%	14.9%	40.9%	14.6%	38.5%	11.2%	17.4%	32.4%	5.4%	2.0%
	関東外	4371	57.5%	23.1%	19.0%	44.4%	17.3%	20.2%	9.4%	1.6%	39.5%	6.2%	2.5%

* 東京都を除く

的に回答率が大きかった「教育内容」、「施設・設備」は、すべての独立変数において有意であることが分かった(表7)。「教育内容」に対する独立変数の偏回帰係数を見てみると、年度別では2008年度(=0)を基準カテゴリーとして、2009年度は-0.147(p<.01)、2010年度は-0.245(p<.01)であった。「施設・設備」に対する独立変数の偏回帰係数を見てみると、2009年度は-0.141(p<.01)、2010年度は-0.249(p<.01)であった。このことから、志願理由の「教育内容」、「施設・設備」は、2008年度と比べて減少していることが分かった。

一方、性別(男子=0、女子=1)の偏回帰係数に着目すると、すべての志望理由に対して有意性が認められた(表7)。このことから、「教育内容(0.560)」、「施設・設備(0.145)」、「就職・資格(0.420)」、「家族・知人の勧め(0.225)」、「距離(0.178)」は女子が回答有りの傾向が大きく、「研究内容(-0.111)」、「知名度(-0.593)」、「授業料(-0.180)」、「第一志望(-0.436)」、「滑り止め(-0.635)」は男子が回答有りの傾向が大きかった(括弧内は偏回帰係数を示す。以下同様)。

卒業区分(卒業見込=0、卒業=1)の偏回帰係数に着目すると、「教育内容(-0.137)」、「知名度(0.153)」、「施設・設備(-0.097)」、「距離(0.129)」、「第一志望(-0.084)」、「滑り止め(0.215)」に有意性が認められた。この結果、「教育内容」、「施設・設備」、「第一志望」

の割合は卒業見込の志願者が大きく、「知名度」、「滑り止め」の割合は卒業済みの志願者が大きいことが分かった。

出身地の偏回帰係数に着目すると、関東外(=0)を基準カテゴリーとしたとき、「研究内容」の関東、「滑り止め」の関東と東京都以外はすべて有意であった。有意であった項目に着目すると、「教育内容(東京都-0.284、関東-0.223)」、「知名度(東京都-0.593、関東-0.291)」、「施設・設備(東京都-0.409、関東0.150)」、「就職・資格(東京都-0.343、関東-0.196)」、「第一志望(東京都-0.647、関東-0.328)」は、東京都出身よりも関東、関東外になるにつれて回答の割合が大きかった。

上記の結果について、「7. 家族、知人等から勧められたから」、「8. 実家から通える距離だから」は、平成21年度調査から追加した項目であることから、この影響を受けた可能性が考えられる。今後の課題として、これらの項目の扱いに注意した分析が必要である。

3.4 情報収集

a) 集計結果

情報収集については、表8の選択肢(10項目)から上位3つ以内を順に選択してもらった。結果、情報収集第1位の無回答の割合は0.3%であったが、第2位の無回答は9.2%、第3位の記述は27.3%であった。このことから、情報収集については第1位の回答が重要と判断し、これに焦点化して分析を行った。

表7 志望理由に関するロジスティック回帰分析の結果(N=12507)

変数	教育内容		研究内容		知名度		施設・設備		就職・資格		授業料		家族・知人の勧め		距離		第一志望		滑り止め		
	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	
年度(2008=0)																					
2009	-0.147**	0.863	-0.066	0.936	-0.143*	0.867	-0.141**	0.868	-0.021	0.979	0.036	1.037	4.308**	74.294	3.181**	24.064	-0.081	0.922	-0.502**	0.605	
2010	-0.245**	0.783	-0.131*	0.877	-0.097	0.908	-0.249**	0.779	0.016	1.016	0.083	1.087	4.375**	79.464	3.174**	23.908	-0.308**	0.735	-0.011	0.989	
性別 (男=0、女=1)	0.560**	1.751	-0.111*	0.895	-0.593**	0.552	0.145**	1.156	0.420**	1.522	-0.180**	0.835	0.225**	1.253	0.178**	1.194	-0.436**	0.646	-0.635**	0.530	
卒業区分 (卒業見込=0、卒業=1)	-0.137**	0.872	-0.063	0.939	0.153**	1.165	-0.097*	0.908	0.004	1.004	0.033	1.033	0.090	1.094	0.129*	1.138	-0.084*	0.919	0.215**	1.240	
出身地(関東外=0)																					
関東	-0.223**	0.753	-0.076	0.748	-0.291**	0.553	-0.150**	0.664	-0.196**	0.710	0.907**	5.259	0.199**	1.362	2.623**	24.015	-0.328**	0.524	-0.129	0.841	
東京都	-0.284**	0.800	-0.291**	0.926	-0.593**	0.747	-0.409**	0.861	-0.343**	0.822	1.660**	2.478	0.309**	1.220	3.179**	13.780	-0.647**	0.721	-0.173	0.879	
定数	0.320**	1.377	-1.076**	0.341	-1.270**	0.281	-0.099*	0.906	-1.708**	0.181	-1.374**	0.253	-6.274**	0.002	-6.991**	0.001	-0.122**	0.885	-2.519**	0.081	
-2対数尤度	16966.9		12882.3		10378.9		16743.6		10567.8		15359.2		7596.2		7915.6		15441.7		5244.7		
尤度比カイ二乗値(df)	292.5(6)		43.8(6)		236.1(6)		126.3(6)		92.0(6)		1207.3(6)		1076.7(6)		2497.0(6)		353.9(6)		94.9(6)		
有意確率	***		***		***		***		***		***		***		***		***		***		
McFadden quasi-R ²	0.017		0.003		0.022		0.007		0.009		0.073		0.124		0.240		0.022		0.018		

*p<.05. **p<.01. ***p<.001

表 8 情報収集の選択肢

選択肢
1. 家族、知人等からの話
2. 学校または予備校の先生からの話
3. 大学から大学案内・選抜要項を入手
4. 首都大学東京の大学説明会に参加
5. 予備校・受験産業主催の進学ガイダンスに参加
6. 受験雑誌等から
7. 首都大学東京のホームページを見て
8. 新聞広告
9. 鉄道車内吊り広告
10. その他

情報収集第1位の結果を見てみると、全体で「家族・知人(28.9%)」の割合が最も大きく、次いで、「学校・予備校の先生(18.7%)」の割合が大きかった。このことから、第一に、受験生は家族・知人、学校・予備校の先生など、自分の身近な人物から大学の情報を得ていることが予想された(表9)。一方、「新聞広告(0.1%)」、「吊り広告(0.1%)」は、情報収集(第1位)の回答は僅かであった。

次に属性別の分析を行った結果を表9に示す。年度別の結果に着目すると、全体の分析結果と同様「家族・知人(平成20年度27.9%、平成21年度28.5%、平成22年度30.0%)」は、すべての情報収集源の中で3カ年とも大きい割合を示していた。次いで「学校・予備校の先生(平成20年度18.8%、平成21年度17.7%、平成22年度19.2%)」が挙げられた。

性別、卒業区分別の結果について見てみると、全体の分析結果同様「家族・知人(男子(卒業見込)30.0%、男子(卒業)29.6%、女子(卒業見込)27.0%、女子(卒業)27.0%)」が、すべての項目の中で大きい割合を示して

いた。「大学説明会(男子(卒業見込)8.7%、男子(卒業)4.9%、女子(卒業見込)15.2%、女子(卒業)7.4%)」は、女子(卒業見込)が他の群よりも値が大きいことが分かった。

出身地別の結果について見てみると、全体の分析結果同様「家族・知人(東京都32.1%、関東30.0%、関東外25.0%)」が、すべての項目の中で大きい割合を示していた。また、「大学説明会(東京都15.1%、関東9.6%、関東外4.3%)」は、東京都が他地域よりもその割合が大きく、一方、「大学案内(東京都15.1%、関東16.9%、関東外20.1%)」、「受験雑誌(東京都6.4%、関東9.3%、関東外15.8%)」、「ホームページ(東京都9.0%、関東10.9%、関東外13.2%)」は、東京都から関東、関東外になるにつれて、その割合が微増していた。

b) 属性別の結果

情報収集(第1位)について、上述のように性別、卒業区分、出身地の属性によって割合が異なるところがいくつか存在した。そこで、性別、卒業区分、出身地による影響を分析した。具体的には、全体的に回答数が少数であった「新聞広告」、「吊り広告」、および、「その他」を除くすべての項目(有=1, 無=0のダミー変数)を従属変数と定義し、年度(2008=0を基準カテゴリーとした2つのダミー変数(2009, 2010)を採用)、性別(男子=0, 女子=1のダミー変数)、卒業区分(卒業見込=0, 卒業=1のダミー変数)、出身地(関

表 9 情報収集(第1位)の結果(属性別)

項目と属性	n	家族・知人	学校・予備校の先生	大学案内	大学説明会	進学ガイダンス	受験雑誌	ホームページ	新聞広告	吊り広告	
全体	12507	28.9%	18.7%	17.5%	9.4%	1.0%	10.7%	11.1%	0.1%	0.1%	
年度	平成20年度調査	4026	27.9%	18.8%	18.0%	8.6%	1.1%	12.4%	11.3%	0.1%	0.2%
	平成21年度調査	3571	28.5%	17.7%	17.2%	10.9%	1.1%	11.1%	11.4%	0.0%	0.1%
	平成22年度調査	4910	30.0%	19.2%	17.3%	9.0%	0.8%	8.9%	10.7%	0.0%	0.0%
	男子(卒業見込)	5472	30.0%	20.2%	15.6%	8.7%	1.0%	10.9%	10.8%	0.0%	0.1%
性別・卒業区分	男子(卒業)	2844	29.6%	18.0%	20.1%	4.9%	1.3%	11.3%	11.9%	0.1%	0.1%
	女子(卒業見込)	3215	27.0%	17.4%	17.4%	15.2%	0.7%	9.6%	10.0%	0.1%	0.1%
	女子(卒業)	976	27.0%	15.8%	20.7%	7.4%	1.4%	10.6%	14.2%	0.0%	0.1%
	東京都	3825	32.1%	18.2%	15.1%	15.1%	0.9%	6.4%	9.0%	0.1%	0.3%
出身地	関東*	4311	30.0%	19.6%	16.9%	9.6%	1.5%	9.3%	10.9%	0.0%	0.0%
	関東外	4371	25.0%	18.1%	20.1%	4.3%	0.6%	15.8%	13.2%	0.0%	0.0%

* 東京都を除く

東外=0を基準カテゴリーとした2つのダミー変数(関東, 東京都)を採用)の属性を独立変数と定義したロジスティック回帰分析を行った。

表10は, 情報収集(第1位)に関するロジスティック回帰分析の結果を示したものである。年度別について偏回帰係数に着目すると, 「家族・知人(2010年度0.106)」, 「受験雑誌(2010年度-0.367)」に有意性が認められた。このことから, 2008年度よりも2010年度の方が家族・知人から情報収集した割合が大きく, 受験雑誌からの情報収集の割合が少なくなっていることが示唆された。

性別は「家族・知人(-0.157)」, 「学校・予備校の先生(-0.173)」は, 偏回帰係数が負であったことから, 男子(=0)の方が女子よりも有意にこれらの割合が大きかった。一方, 「大学案内(0.116)」, 「大学説明会(0.542)」は, 偏回帰係数が正であったことから, 女子(=1)の方が男子よりも有意にこれらの割合が大きかったことが示唆された。

卒業区分の偏回帰係数に着目すると, 「大学案内(0.254)」, 「進学ガイダンス(0.512)」, 「ホームページ(0.166)」が正で有意であった。このことから, 卒業済み(=1)の志願者はこれらの情報収集の割合が卒業見込の志願者よりも有意に大きかったことが明らかになった。一方, 「学校・予備校の先生(-0.137)」, 「大

学説明会(-0.598)」は, 負で有意の値であったことから, 卒業見込(=0)の志願者の方が卒業済みの志願者よりも有意にその割合が大きかったことが示唆された。

出身地の偏回帰係数について見てみると, 関東外(=0)を基準カテゴリーとしたとき, 「家族・知人(関東0.253, 東京都0.369)」, 「大学説明会(関東0.811, 東京都1.266)」は有意性が認められ, この値から関東外, 関東, 東京都と都心に近づくにつれてこの割合が大きかったことが示唆された。一方, 「大学案内(関東-0.190, 東京都-0.330)」, 「受験雑誌(関東-0.609, 東京都-1.004)」, 「ホームページ(関東-0.196, 東京都-0.420)」は, これらの値から, 東京都, 関東, 関東外となるにつれて, 割合が大きくなることが分かった。

4 おわりに

本研究では都内T大学において, 平成20~22年度一般入試選抜による志願者を対象に, 志望時期, 志望理由, 大学の情報収集方法に関する質問紙調査を行い, 回答結果を年度, 性別, 卒業区分, 出身地の属性別に分析を行った。結果, 以下の知見が得られた。

- ・2008年度よりも2010年度調査の方が志望時期にやや遅い傾向が認められた。この理由として, センター試験の難易度や社会の経済情勢との関連が予想されるため, 詳細

表10 情報収集(第1位)に関するロジスティック回帰分析の結果(N=12507)

変数	家族・知人		学校・予備校の先生		大学案内		大学説明会		進学ガイダンス		受験雑誌		ホームページ	
	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比	係数	オッズ比
年度(2008=0)														
2009	0.021	1.021	-0.082	0.921	-0.022	0.978	0.203 *	1.225	0.029	1.029	-0.100	0.905	0.034	1.034
2010	0.106 *	1.112	0.022	1.022	-0.033	0.967	0.012	1.012	-0.402	0.669	-0.367 **	0.692	-0.046	0.955
性別														
(男=0, 女=1)	-0.157 **	0.854	-0.173 **	0.841	0.116 *	1.123	0.542 **	1.720	-0.161	0.851	-0.078	0.925	0.028	1.028
卒業区分														
(卒業見込=0, 卒業=1)	0.021	1.021	-0.137 **	0.872	0.254 **	1.289	-0.598 **	0.550	0.512 **	1.669	-0.042	0.958	0.166 **	1.181
出身地(関東外=0)														
関東	0.253 **	1.447	0.089	1.016	-0.190 **	0.719	0.811 **	3.547	0.924 **	1.545	-0.609 **	0.366	-0.196 **	0.657
東京都	0.369 **	1.288	0.016	1.093	-0.330 **	0.827	1.266 **	2.249	0.435	2.521	-1.004 **	0.544	-0.420 **	0.822
定数	-1.108 **	0.330	-1.398 **	0.247	-1.494 **	0.224	-3.178 **	0.042	-5.127 **	0.006	-1.474 **	0.229	-1.949 **	0.142
-2対数尤度	14963.4		12011.0		11525.5		7361.8		1361.5		8261.8		8681.4	
尤度比カイ二乗値(df)	75.4(6)		24.8(6)		65.7(6)		445.6(6)		29.5(6)		229.9(6)		45.7(6)	
有意確率	***		***		***		***		***		***		***	
McFadden quasi-R ²	0.005		0.002		0.006		0.057		0.021		0.027		0.005	

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

な分析が求められる。

- ・女子は男子よりも志望時期が早く、大学の研究内容や施設・設備を志望理由として挙げていた。女子の志願者獲得のためには、高校 1～2 年生の段階で、大学の研究内容や施設・設備等に関する情報を提供することが重要と考えられる。
- ・卒業見込の志願者は志望時期が早く、志望理由として研究内容や施設・設備を挙げ、学校・予備校の先生、大学説明会の影響が大きいことが分かった。卒業済みの志願者は志望時期が遅く、志望理由として滑り止めと考える傾向があり、大学案内やホームページなどの影響が大きかった。よって、卒業区分によって志望理由や情報の媒体が異なるため、情報媒体とその内容が、志願者が求める情報と合致しているか分析することが大切である。
- ・東京都出身の方が関東、関東外出身よりも志望時期が早く、志望理由と情報収集とも家族・知人の影響が大きいことが分かった。これは、T 大学ならではの特徴かもしれないが、このことから、大学に関する情報を保護者等に周知する方法を検討することが重要である。また、関東外出身者は志望時期が遅い傾向にあるが、第一志望と考えている傾向がある。志望理由として研究内容や施設・設備、知名度を挙げ、大学案内やホームページの影響が大きいことから、関東外出身の志願者に対する広報の方策を検討することが重要である。

今後の課題として、本研究と同様の調査を新生や入学辞退者などを対象に分析を行いたい。また、本データから新生のみのデータを抽出して全体との比較を行ったり、年度や出身地を独立変数としてこれらの傾向差を分析したりすることが求められる。本研究の意義をより高めるために、属性で分けた場合

と分けられない場合の結果の差異を分析することも必要であろう。さらに、志願者の受験行動分析や（寺下ほか、2009）、倉元（2008）のように学部ごとに分析を行うことが重要と思われる。加えて、本研究で得られた知見と今後の広報活動に活かす方略を検討することが挙げられる。

付記

本研究は、平成 20～22 年度首都大学東京傾斜的研究費（部局裁量分）の支援を得た。

注

- 1) T 大学は国公立大学である。大学名を明示しないことを条件に公表の許可を得た。
- 2) 質問紙の冒頭に、回答内容が入試成績や順位に一切影響しないことや質問紙の提出の有無により入試において有利・不利な取扱を受けることがない旨を記述した。

参考文献

- 加賀谷誠・池村好道（2008）。「広報活動の取組とアンケート結果について」、大学入試研究ジャーナル, 18, 7-11.
- 倉元直樹（2008）。「東北大学入試広報戦略のための基礎研究（2）—過去 11 年の志願動向に見る各募集単位の特徴—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』3, 63-76.
- 寺下榮・村松毅・田中勝（2008）。「一般入試志願者の受験行動に関する調査—募集要項の請求から入学手続きまで—」『大学入試研究ジャーナル』18, 13-18.
- 寺下榮・村松毅（2009）。「東海・北陸地区国立大学・入試広報の取組—エリア別志願者の受験行動に関する調査—」『大学入試研究ジャーナル』19, 145-150.
- 寺下榮・村松毅（2010）。「東海・北陸地区国

立大学—入試広報の取組④—新入生アンケート結果からみた受験生の大学選択と入試広報—『大学入試研究ジャーナル』 **20**, 103-108.

吉村幸・木村拓也 (2010). 「新入生を対象とした入試広報活動に関する調査」『大学入試研究ジャーナル』 **20**, 209-216.